

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200946		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	小山田グループホーム	たんぽぽユニット	
所在地	三重県四日市市山田町5516-1		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町提出日	令和2年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470200946-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 10 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為の対策として、いろいろな事が困難になってきているが、新型コロナウイルス感染が世界的に広がる以前は、入居者の方が季節感を感じてもらえるよう各季節に応じて花見や、地域の方との交流での桜の花見に参加したり、地域の神社へ初詣に出かけたり、少しずつ地域の方々との交流の機会ができてきた。また、ご家族様には受診時や面会時に入居者の方の日常の生活を伝え、ご理解いただきながら、その方に合った支援を行うように心がけ、お一人お一人の笑顔を引き出せるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四日市の西部地域にあるグループホームは広大な敷地内に法人の老人施設が建ち並び、隣地には関連の医療機関がある恵まれた環境の中に立地している。法人の指揮下のもと協力体制があり、介護度の変化に応じて対応が可能であり利用者は安心して過ごす事ができる。事業所開設から年数が経っているものの室内は清潔に保たれており利用者が居心地よく整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議やユニットミーティングなどで、理念の共有を図るよう心がけている。	各ユニットで理念を考え職員で共有している。日々のケアの中で指針となる様に促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在は外出や面会もお断りしている状況であり、地域の方々との交流も困難になっている。	今年はコロナウイルス感染拡大防止策を徹底しているために地域との交流は困難であるが、感染が収まれば例年通りの交流を再開していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では積極的に入居者の方のグループホームでの様子をお伝えすることで、認知症の方の理解につなげたり、入居者への支援などを身近に感じてもらえるようにしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に2か月に一度開催しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4月度からは対面での会議は行わず、書面での議事を送付し、ご意見をいただくようにしている。	運営推進会議は2か月に一度開催している。連合自治会長をはじめ地域代表に参加してもらい、意見交換を行っている。コロナ禍の今年は書面でのやり取りに変更している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告や相談が主である。	運営推進会議時に事業所の実情を見聞きしてもらい、意見や情報をもらい運営の参考にしており協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行う事がない。また、そうではないかと思われる事案についてはミーティングを行い、問題解決を図っている。玄関については施錠しているが、内外からサムターンで開閉が自由に行えるものである。	身体拘束の勉強会を開催し、言葉の拘束も含め禁止事項の確認をし日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の設置や、定期的な事業所内伝達研修を行い、虐待防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	きちんとした勉強会は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際し、必ずご家族様への説明を行い、質問や疑問点を尋ね、お答えすることでご理解いただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者受診時にご家族からご意見を聞くようにしている。	本人や、面会や受診時の家族から要望を聞き取り、サービス向上に向けての意見を聞く様になっている。事業所内での共有、本部への報告等内容により対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業所全体での職員会議は行わず、少人数で数回に分けてミーティングを行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	コロナ禍での対応は少人数での会議を行って、意見や要望を聞き取る様に工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則・給与規定の変更があった場合には、事業所の中から職員代表者を選出し、代表者が説明会に出席し、職員からの意見を聞いたり同意を得ている。また、管理者からも職員に説明を行ったり意見を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修があれば、積極的に研修に参加してもうようになっているが、現在は新型コロナの影響で、WEBでのオンライン研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナの影響もあり、他事業所等との交流の機会は持っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前調査を行い、入居者の事を把握し、入居後も本人様の声に耳を傾けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたりご家族のいろいろな思いなどをお聞きし、少しでも安心していただけるよう環境や関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた本人やご家族には、適切かを判断し、ご家族には他のサービスも視野に入れた助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位を念頭におき、個々の利用者支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や面会時等に入居者(本人)の日常を伝え、家族の思いを傾聴するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ感染症拡大が懸念される前は、ご家族や知人の方なども随時面会にみえていたが、現在は面会していただけない為、現在はオンライン面会や電話対応を行っている。	馴染みの関係継続のためコロナ禍の中でも出来ることを工夫し支援に努めている。直接の面会は控えオンライン面会や玄関でのドア越しでの対応を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないよう仲裁に入り、気分を変えていくようにしている。また、お願いできる事はお互いに助けて頂けるよう促すなどして、関係性を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族には負担のかからないよう配慮しながら相談などしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや日々の職員ミーティングなどから本人の意向に気づき、スタッフで共有している。	理念に掲げてあるように、利用者本位になるよう日々の生活の様子や会話から暮らし方の希望の把握に努めている。その日の気分に合わせて出来ることを促している。	丁寧な聞き取りを行うように心掛けているが利用者本位になっているかを職員で考え、改めて一人ひとりの思いや意向を汲み取り寄り添う事を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を職員が把握し、本人との会話をもつ中で生活歴や暮らし方を探り、スタッフで共有している。また、馴染みの家具や大切にされている物品・写真など持参して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りやミーティングなどで、その方に合った活動や過ごし方をさせていただけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスでは計画作成担当者を中心に、他の職員の情報も得ながら進めている。	担当職員が毎月モニタリングを行い、特記事項や状態変化に応じてカンファレンスを行い計画作成を行っている。本人や家族の意向を反映し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやユニットミーティングで利用者の気づきや変化の情報を共有し、対応方法について話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調を急に崩された入居者の受診については、ご家族様から職員付き添いの希望があれば、可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は上手くできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は大切にしているが、ご家族の意向により、かかりつけ医から協力医療機関の方へ移られるケースが多い。	本人・家族の希望を聞き取り主治医を決めているが、緊急時等の対応を考慮し関連医療機関である協力医療機関への受診が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所には看護師はいないが、入居者の状態に異変があれば同一敷地内の特養ホーム看護師が診に来て下さり、指示や助言をもらい、協力医療機関への受診がスムーズに行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療後、退院の前に医療機関へ実調に行き、利用者の状態把握に努めると共に、医療機関から看護サマリー、栄養サマリー、リハビリ計画書等の情報をもらうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議や職員会議などで、対象者がいなくても重度化や終末期のあり方について話題を出すようにしているが、実際には医療スタッフがみえる特養施設等へ移られるケースが多い。	職員間で終末期のありかたについて考える機会は持っているが、重度化になった場合は法人内の関連施設に移る場合が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の連絡対応は出来るようになっているが、応急対応などの訓練は、定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年3回の訓練を実施している。法人内の訓練と併せて、当事業所でも昼間想定・夜間想定での年2回の消防・避難訓練を行っている。コロナの影響で地域との協力体制は築けていない。	備蓄品も確保しており、法人内グループホームや本部との連携も取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いやプライドやプライバシーを傷つけないよう常に心がけ、業務を行っている。また、職員同士気づいた事があれば、注意喚起を行っている。	日々の声掛け・入室時・トイレ誘導時等、一人ひとりのプライバシーに配慮し、そのひとの尊厳に留意し日々の対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者一人一人の希望が汲み取れるよう傾聴や対話を心掛け、自己決定しやすい支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節の行事・誕生会・散歩など入居者の自己決定に委ね、本人の希望に沿って参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前や外出時前にはご本人の好きな洋服を職員と一緒に選んでもらったりして、おしゃれや身だしなみを整えてもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゼロクック(調理をしない)メニューになり、盛り付け・配膳・下膳など本人が出来る事を行ってらっている。また、おやつや季節行事、誕生日会には好きなメニューと一緒に考え、一緒に準備を行っている。	調理は行っていないが一緒に盛り付けから下膳まで出来ることを行っている。特別なおやつや行事にはメニューを考えたり一緒に準備を行う等、食事が少しでも楽しいものになる様に工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時の水分補給以外に、朝10時のお茶の時間や、午後3時の飲み物とおやつの時間、入浴後等でこまめに水分補給を行っている。また、ゼロクックを導入しているため、栄養バランスはとれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には口腔ケア、歯磨きの声掛け支援を行い、ご自身お一人では難しい方には食後の口腔ケアや就寝前の口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の入居者の排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄に努める。	排泄チェックを元に利用者のパターンを把握しトイレ誘導を行っており、自立支援に向けた取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のお茶の時間には、便秘傾向がみられる方にはオリゴ糖を摂取してもらったり、室内運動をして頂くなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴についてはすべて入居者の希望通りには実施できていないが、できる限り希望に合った対応に努めている。	毎日入浴されたい方や希望時間などの聞き取りを行い、なるべく利用者の希望に沿うように心がけている。一人ひとりゆったりと入浴できるように支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の個々の状態や状況に合わせて居室やソファで休んで頂いている。不眠時には傾聴したり不安解消に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服が変更になった際は申し送りや連絡ノートで情報を共有し、入居者の状態の変化に気を付けている。必ず服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中の役割として、朝の居室掃除や洗濯物干し、ゴミ出し、食事の準備(配膳など)や後片付けなど手伝って頂いている。また、外気浴やグループホーム周辺の散歩などで気分転換してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前には季節毎の花見など外出支援を行っていたが、新型コロナウイルス感染症防止対策の為、外出はできていない。グループホーム周辺の散歩には出かけられるようにしている。	季節ごとの外出を企画していたが、コロナ禍の中では外出に制限がかかっているため事業所周辺の散歩に出かけたり、玄関先で外気浴を行ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人として利用契約書第9条により、個人の金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればご家族に連絡し、電話で話して頂いている。また、ご家族から電話があれば、自室にてゆっくり電話で話されている。コロナ対応として、オンラインによるビデオ通話も利用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング壁や掲示コーナーには、入居者の方と共同で制作した季節の風景や折り紙で作った花など飾っている。また、アクティビティルームではソファでゆっくりくつろぎながら、テレビやビデオ鑑賞したり楽しく会話ができる空間作りに配慮している。	開設後年数が経っているが、玄関・リビングは掃除が行き届いて気持ちよい空間になっている。利用者は思い思いの場所でくつろぐことが出来、安心できる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	アクティビティルームではソファを置いて、気の合った入居者とゆっくり過ごされている。天候が良い日は玄関先で外気浴をして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に依頼し、本人にとって馴染みの家具や本人が大切に使われていた物などを用意してもらうようにしている。	大きなクローゼットがある部屋は清潔に保たれ、馴染みの物が持ち込まれ居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカー・歩行器などを使用され、職員が付き添い歩行支援を行っている。入居者お一人お一人に合った環境作りに努めている。		